

（ 数学 ）学習指導案					
日 時	平成 20 年 6 月 11 日(水)第 3 限		指導者	(省略)	
学 級	2 年 2 組		教 室	2 0 2 教 室	
単 元	連立方程式		教科書	未来へひろがる 数学 2 (啓林館)	
単元目標	数量の関係を 2 つの文字を用いて等式に表し、これを用いて実際の問題を形式的・能率的に処理することができるようにする。		指導計画	1 連立方程式とその解 2 時間 2 連立方程式の解き方 5 時間 3 連立方程式の利用 4 時間 4 練習問題 2 時間 (本時はその 3)	
主 題	連立方程式の利用(割合の問題)		課 題	割合の復習プリントを解いておく。	
目 標	1 日常生活に直結した課題を設定することで、意欲的に課題解決させる。 2 割合で表された数量の関係を、2 つの文字を用いて等式に表させる。 3 連立方程式を利用して、問題を解決させる。				
本 時 の 指 導 展 開 程 序	学 習 内 容		時間	指導上の留意点・評価の観点	資料等
	導 入	本時の学習課題を確認する。  福袋の品物それぞれの定価を求めよう。	5	・ 実体験を交えた説話により、意欲的に課題解決させる。 (関心・意欲)	ワークシート
	展 開	1 割合の表現の復習をする。	5	・ 「～%」と「～%引き」の違いを確認させる。 (知識・理解)	
		2 「定価通りで売ったときの福袋の値段」と「実際の福袋の値段」の 2 つの観点で、等式をつくる。	1 0	・ 2 つの文字を用いて、連立方程式をつくらせる。 (見方・考え方)	
		3 Tシャツと海パンそれぞれの定価を求める。	1 0	・ 連立方程式を解いて品物それぞれの定価を求めさせる。 (表現・処理)	
4 問題演習をする。	1 5	・ 「～割引」の問題について、同様に演習させる。			
整 理	1 本時のまとめをする。 2 次時の予告をする。		5	・ 要点を再確認させる。	
次時の課題	教科書p.41の基本の確かめを解く。				
備考	生徒数 27名(男子10名,女子17名) B講座				